

学校研究だより

第2号

平成30年7月20日(金)

学校研究委員会

第3回校内研修会(6月22日(金))

研究授業 2年1組 社会科「近畿地方」授業者 市河 良麻教諭

講演会「主体的・対話的で深い学び」 国士舘大学教授 北 俊夫 氏

<研究授業を踏まえた北先生のお話より>

資質・能力を構成する3つの柱

- ①知識・理解 (教えるもの)
- ②思考力・判断力・表現力・学びに向かう力 (育てるもの)
- ③人間性 (個人内評価…文章で記録を残す)

⇒そのために、主体的・対話的で深い学び、そして授業改善が必要になってくる。

(1) 主体的

- ・課題意識をもっている。
- ・学びの成果を自覚できている。
(生徒に自己評価をさせる)
- ・先の見通しを持っている。
- ・問題解決的な学習

(2) 対話的⇒協働的

対話的

協働的

対 教師	対 生徒	対 自分自身	・話し合い活動
対 地域	対 教材の人物		・助け合い

(3) 深い学び

①理解が深まる	②思考が変容する
③技能が高まる	④関心興味が広がる

⇒比較対象が必要 例) 単元等の最初に生徒の考えを書いておく

・アクティブラーニングは、特に3つの学びが必要になる。①主体的な学び ②対話的学び ③深い学び である。①では、生徒自身が目的意識・課題意識を持って取り組むこと。②では対話を超えて共同的な学び、つまり学び合いの場があること。③では、理解度が深まり、思考が変わっていくことや、学習成果を振り返ることができることである。つまり、単に子どもをアクティブにするのではなく、子どもと大人の考えがアクティブにならないといけない。

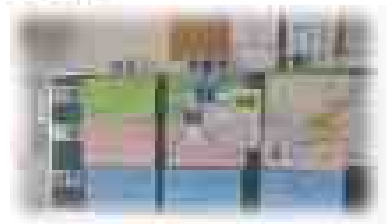
・“Learning by doing” とは「為すことによって学ぶ」ということ。教えて身に付けさせるのではない。教えることではなく育てることが大切。そのために①授業そのものの改善②よりよい社会人にするための方法を教師が考えることが必要になってくる。

- 授業の1時間は木にあたる。
- 色々な生徒がいて、時には諦めたりすることがあるが、学校教育の役割をもう一度理解してほしい。
- 「愛情」⇔「無視」。愛情はまさに教育の原点といっても過言ではない。
- 教育とは…社会をつくる人材を育てる人格の完成

<本日の授業について>

- ①綿密な指導計画…単元構想図から見てわかる通り、極めて細かい計画を立てていた。
- ②社会参画…子どもにとって学校・学級は社会
- ③教えようとすることを生徒から引き出す…資料から/教師の言葉かけ/活動を促す

- 生徒に作業を促し、全体が参加できる授業構成になっていた。
- 発表した生徒や生徒の声を拾って、しっかりリアクションをしてあげていた。
- 生徒1人1人が本時の目的意識をもって取り組む様子があった。
- 考え方や見方を目でまとめさせるといのはとてもいいこと。



<全体の授業へのアドバイス>

- 1つの分野だけでなく多面的に社会をとらえさせることが必要。
- シグゾー分担学習は、メリット・デメリットがあることを事前に把握しておくべき。メリットは自分の担当分野についての知識が増え、学び合いの場が多くあること。デメリットは知識の偏りが生まれ、全体の理解度が甘くなること。
- 発表する前に対話させる場面を設けるとより、対話的学びにつながる。
- 聞く生徒への指導では、何のためのメモなのか、どのようにメモをとるのかの確認が必要である。
- 発表する側の指導は、発表者は先生役であることを伝えておくとよい。
- まとめ方の工夫は、共通点と相違点は見つけさせる。また特色は比較によって発見できることを伝えるとよい。

<感想>

- 学ぶ内容が多く、知識の教え込みになりがちな授業を改善していく必要があると感じた。授業の中で考えを子ども達から引き出したり、資料で学ばせる工夫をしたりすることで、より子どもたちが主体的に学ぶ授業に近づくのではないかと思う。
- 学校での授業が社会参画を考え、構成され、社会に出る前の大事な作業である事が改めて認識することができた。
- 授業の進め方の中で、発表の場での問いかけ、言葉かけ等大変勉強になる授業でした。
- 「発表する人＝先生になる」という言葉が心に残りました。ただ発表させるのではなく、その内容から共通性や相違点に目を向けさせたりすることで、味方・考え方を養うことにつながり、会話が生まれるということにとっても感銘を受けました。また人間性の個人内評価についてもこれからの教育におけるヒントを頂いた気がしました。
- 学校教育の出口を見据え、より主体的な社会人を育てる学び学習の方法を考えて実践していこうと思いました。